

(4) 様式 4_助成事業実施報告書

平成29年 7月26日

助成事業実施報告書

団体名 社会福祉法人 中央有鄰学院 自立援助ホーム
代表者・役職名 氏名 施設長 中上 純二 きょうわ

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

ステップハウスの電気温水器取替え工事

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

社会福祉法人中央有鄰学院は、明治33年慈善救済事業が基となり、豊橋育児院として設立されました。昭和23年児童養護施設となり、昭和37年には現在の敷地に移転。平成24年に既存のアパートを改修し、定員6名の自立援助ホームを開設しました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

自立援助ホーム移転にあたり、これまで使用していた建物は今後自立援助ホームを出た子ども達の自立した生活の訓練の場「ステップハウス」に変わる事になりました。古い建物ゆえ多くの修繕が必要となってきます。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

ステップハウスとして利用する施設の
電気温水器取替え工事

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

修繕により、温水が使えらる部屋が2部屋できました。
このステップハウスで一人暮らしの練習をし、社会に出ていく自信につながると思えています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

これまでステップハウスというものがない状態で、一人暮らしを挫折してしまう状況もありましたが、ステップハウスを利用することにより、より多くの子どもが自立し、夢に向かっていくことを望んでいます。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。 参考資料あり・特になし

